

---

# 支離滅裂大爆発！！

しんる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

支離滅裂大爆発！！

### 【Nコード】

N4727D

### 【作者名】

しんる

### 【あらすじ】

平和だった世界が戦闘の中へ。万年被害者少年、勇太と大暴走妖精、里沙が支離滅裂大爆発な冒険に出発する。

やるせない感情で、滑りそうになったグリップを掴み直した。一体、何がおこったのかと自分の周りを見回した。

あかいうみ。

あかぐるいうみ。

鈍く光る刀身を見、

先ほどまでと違うことを理解した。

あの訳のわからない少女 里沙 の声が、至極遠くにきこえる…

事の発端は少女が空から降ってきたところからだ。

最近、異常気象やら猟奇事件なんかが多発していた。

漠然と

「地球もそろそろ危ないかな」なんて考えてた。

そして、空から里沙が降ってきた時点で確信した。

あ、終わった。と。

まさか始まりだったとは…

里沙は自分の下にいたオレを確認し、言った。

「貴方は勇者への道を歩くのよ！」

そして日本刀を差し出した。

受け取らないと刺されそうな勢いが怖かった。

ごっつん。

「聞いているの、勇太？」

後頭部に受けた適度な痛みと、里沙の声でオレは現実へとつれもどされた。

「意外と冷静ね。」

「いやいや、パニックってわけわかんないだけよ？」

血の池地獄に浮かぶ犬の化物の死体を見ながらオレは返す。

「もっとこう、叫んだりしながら倒すかと思ってたわ。」

里沙はそう言いながらオレの手から刀をもぎ取った。

「その暇もなく必死だったんだよ。」

そう言いながら、オレは里沙へと視線を移す。

「そんなものかしらね。」

里沙は刀の血を脱ぐっていた。

「まあ、さすが木枯らし丸よね。あんな使い方でも刃こぼれしないなんて。」

「あんなで悪かったなあ。」

里沙が鞘に戻す刀が鈍く光った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4727d/>

---

支離滅裂大爆発！！

2010年10月28日07時20分発行